



▲参加された宮前町の皆さん。大会のために集められた
ひまわりの前で

地域のつながり 隣組の結束を

村井・宮前町でひまわり背比べ大会

8月20日(土)、村井・宮前町で、「天までとどけ!! 宮前町 ひまわり背比べ大会」が、地藏盆にに合わせて開催されました。

地域の皆さんで企画をふくらませ、今年初めて実施されました。宮前町は、上組・下組それぞれ12軒ずつの計24軒。上組・下組で選抜した5鉢ずつが集められ、その合計の高さが競われました。レーザーを使用した本格的な測量機で高さを測り、見事上組が勝利。会場での投票による一番人気のひまわりにも賞が贈られました。

幅広い世代の方がこの大会に集い、会話の花も咲きました。

ふるさとを知って 好きになろう

子どもわたむき講座・検定

8月中旬から、町内公民館で小学生を対象とした「子どもわたむき講座」が開催され、27名が参加されました。日野観光ボランティアガイド協会の皆さんが講師となり、写真などをを用いながら、日野町の歴史や文化などを分かりやすく解説されました。

8月26日(金)には、その勉強の成果を発揮する「子どもわたむき検定」が実施されました。各地区ならではの問題10問を含む50問が出題され、90点以上の6人が「子どもわたむき博士」、80点以上の7人が「准子どもわたむき博士」に認定されました。



写真を見ながら、日野祭について説明を受ける子どもたち
(鎌掛公民館) ▼

▲真剣な眼差しで子どもわたむき検定に挑戦(西桜谷公民館)



▲日野町連合青年会と中国青年代表団が交流し、青年会の活動を紹介。自己紹介は盛り上がりしました

「交流する機会」こそ大切なもの

中国青年代表団が町内で心の交流

8月26日(金)から28日(日)まで、日本政府主催の21世紀東アジア青少年大交流計画(日本滞在8日間の3日間)で、中国各省から青年24名が日野町に来町されました。

青年たちは、祭囃子体験や近江日野商人館見学の後、9軒の受入家庭で農村生活を体験され、「親切で温かいおもてなしに感動しました」と感想を話していました。

2日目は、必佐公民館で地区の子どもたちや日野町連合青年会と「よさこいソーラン」の踊りで交流。代表団からも歌や踊りが披露され、言葉の壁を越えた心の交流が広がりました。



▲大窪にある施設「ともだち」で、スタッフやボランティアの皆さんと一緒に魚釣りゲーム

夏の思い出 つくったよ！

サマースクール事業

7月22日（金）から8月30日（火）まで、今年もわたむぎの里福祉会では、特別支援学校や学級に通う町内の子どもたちを対象に、夏休みの活動の場「サマースクール」を開所されました。

期間中、子どもたちは、プールでの活動や、電車でお出かけをしたり、おやつ作りをしたりと今年の夏もたくさん経験や思い出をつくりました。

この事業は、毎年大学生や高校生をはじめ、たくさん地域のボランティアの皆さんの協力が大きな力となっているそうです。

チームワークでおもてなし

増田営農組合で稲刈りツアー受け入れ

9月10日（土）、増田営農組合が生活協同組合の稲刈りツアーの受け入れをされました。大阪から参加された約45名は、稲刈りやコンバインの乗車、芋掘りなどを体験されました。

増田営農組合では、前日や朝早くから多くの組合員の皆さんが準備をされました。昼食は、地元で収穫された野菜をふるまわれ、かまどで炊いた新米で参加者自身におにぎりを作ってもらったなど、心のこもったおもてなしがなされました。



①朝から田んぼで、もみがらを使った焼き芋の準備②会所では参加者やスタッフの昼食準備③ツアー参加者ととも稲刈り

お月さま ありがとう

南比都佐幼稚園でお月見会

9月12日（月）、南比都佐幼稚園でお月見会が行われました。

きく組の園児たちが粘土で作った月見団子や、先生方が準備されたすすきや秋の果物・収穫物が飾られた会場で、園児たちは「月」などの歌を歌ったり、先生に絵本を読んでもらったりしました。また、月見団子を一口食べた園児からは、「三日月ができた！」と団子を三日目に見立てた感想がありました。

この日は、一年の中で最も明るく美しい「中秋の名月」が見られる十五夜。季節を味わう豊かな時間が流れました。



▲お月見のおそなえの前で、先生にお月さまに関わる絵本を読んでもらう園児たち